

# 和泉大学への大学名称の変更

## *Renaming of Osaka Kawasaki Rehabilitation University to Izumi University*

武田雅俊<sup>1)</sup> 篠崎和弘<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 大阪河崎リハビリテーション大学 学長、大阪大学 名誉教授

<sup>2)</sup> 大阪河崎リハビリテーション大学 理事、和歌山県立医科大学 名誉教授

Masatoshi Takeda<sup>1)</sup>, Kazuhiro Shinosaki<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> *President, Osaka Kawasaki Rehabilitation University, Professor emeritus, Osaka University Medical School*

<sup>2)</sup> *Board, Osaka Kawasaki Rehabilitation University, Professor emeritus, Wakayama Medical University Medical School*

**要旨：** 本学は、令和8年4月に「大阪河崎リハビリテーション大学」から「和泉大学」へと大学の名称を変更する。この大学名称の変更は、地域社会と国際社会への貢献を拡大し、リハビリテーション分野を中心とした健康創成社会の構築を目指す決意の表明であり、これまでの20年間で蓄積した教育・研究成果を基盤とし、リハビリテーション専門職の養成大学から地域に密着した総合的な研究教育機関へと発展するための大学開設20周年事業の一環である。

和泉大学のビジョンは、超高齢社会に対応する健康創成社会の構築を目指し、ウェルビーイングを重視した近未来のリハビリテーション専門職を養成し、リハビリテーション領域の新技術開発や地域資源（例：機能性食品）の活用を通じ、認知機能の維持や健康寿命の延伸に貢献することであり、データサイエンスを活用した統合的な研究アプローチを強化し、地域および国際社会への貢献を果たすことである。

大阪南部・和歌山地域の自然環境を活用したこれまでの園芸療法の伝統に加えて、食物や機能性食品の研究を推進し、認知予備力の本体を解明し認知症の予防法を開発し、地域行政や産業との連携を深め、産官学の協力による地域活性化を目指す。

**キーワード：** 和泉大学、名称変更、データサイエンス、ヘルスプロモーション、園芸療法

**ABSTRACT :** In April 2026, the university will change its name from Osaka Kawasaki Rehabilitation University to Izumi University. This change of name is a declaration of our commitment to expanding our contribution to the local and international communities and to the creation of a health-creating society centered on the field of rehabilitation. It is also part of the university's 20th anniversary project to develop from a university that trains rehabilitation professionals to a comprehensive research and educational institution that is rooted in the local community, based on the educational and research activities accumulated over the previous 20 years. The vision of Izumi University is to contribute to the maintenance of cognitive function and the extension of healthy life expectancy through the development of new technologies in the field of rehabilitation and the utilization of local resources (e.g. functional foods), with the aim of building a society of health creation that responds to the needs of an ultra-aged society, and to train rehabilitation professionals who place importance on wellbeing in the near future, and to strengthen an integrated research approach that utilizes data science, and to contribute to the local and international community.

**Key words :** Izumi university, renaming, data science, health promotion, horticultural therapy

<sup>1)</sup> 武田雅俊 Masatoshi Takeda

E-mail : masatakeda@kawasakigakuen.ac.jp

## 1. はじめに

2024年11月25日の本学理事会と評議員会において、本学の名称変更について審議され、2026年4月に、本学の名称を大阪河崎リハビリテーション大学から和泉大学に変更することが決定された。大学の名称が変わることは、大きな変革であり、和泉大学への名称変更を成功させるためには、大学の魅力を高めつつ、関係者の混乱を最小限に抑えることが重要となる。

そのためには、名称変更の経緯を十分にご説明申し上げて、教職員、学生、保護者等の方々、卒業生を含む関係者の皆様方からのご理解を得ることが必要であろう。

筆者は、2018年に認知予備力研究センター長として本学に赴任し、2020年から学長を勤めているが、この間、大学のあるべき姿、本学の進むべき方向性などを考えてきた。その一つの決断として大学の名称変更がなされることになったのであるが、その経緯を含めて学長としての思いを書き綴っておきたい。

## 2. 名称変更の目的

2006年に開設した大阪河崎リハビリテーション大学は、1997年4月に開学した河崎医療技術専門学校を土台として、これまでリハビリテーション専門職を養成してきた。本学が養成したリハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）は、専門学校の時代を含めると約二千人に上り、大阪・和歌山を中心に地域のリハビリテーション・サービスの担い手として活動している。

この間、本学は大学としての研究・教育活動の拡充に努め、2018年に認知予備力研究センターを設置し、2019年に英文学術誌 *Cognition & Rehabilitation* を刊行し、そして2021年に大学院リハビリテーション研究科を開設した。新たに本学教員を採用する場合には、原則として博士号と一定水準以上の研究業績を条件として参画を求め、一般的なリハビリテーション専門職養成校には見られない分子生物学実験室に加えて、生体計測設備、生理学実験設備を整えてきた。その結果、国際学術誌への論文発表は年々増加し、文部科学省科学研究費の獲得においても近隣大学の中では群を抜いて成長しており、本学の研究教育活動は社会的要請に応えることができる水準に達した。

このような実績を踏まえて、大学設立二十周年を迎える2026年に「和泉大学」として生まれ変わり、リハビリテーション専門職の養成だけでなく、新たなリハビリテーションの技法開発とリハビリテーションを中心とした健康創生事業を展開したいと考えている。

和泉大学と大学名を改称して、新たなリハビリテーションを開発する力を蓄えた教育臨床研究機関としての役割を果たすことを決意し、広く国際的な貢献を果たしたいと考えている。

和泉大学の名称は、これまで以上に大阪南部・和歌山の地域の行政・民間企業・医療施設・教育研究機関との連携を深め、地域に生きる大学として活動することの決意表明である。

新たなリハビリテーション領域を開拓し、地域住民の個々のウェルビーイングを重視する健康寿命の延伸を目指した地域の健康創生に役立つ学術活動を展開したいと考えている。

## 3. 新しいビジョン

和泉大学が目指すビジョンは、我が国が迎えている超高齢社会における健康創成社会の構築を担うことである。単なる健康寿命の延伸でなく、個々のウェルビーイングを高め、個人が主体的に自分の健康データを管理して、リハビリテーション専門職と共に心身ともに充実した生活を送ることができる社会の創成を目指し、そのために必要とされる人材を育成する。

歴史的にみると、リハビリテーションは回復困難な疾患に罹患した人の機能回復を支える技術として発展してきたが、近年は、急性期リハビリテーションの有効性が実証され早期リハビリテーションの重要性が言われている。そして、リハビリテーション領域で培われた知識と技法は、疾患が顕在化する以前の予防医療での貢献を可能とし、近未来のリハビリテーションには健康創成社会の構築における大きな貢献が期待されている。和泉大学は、既存のリハビリテーション技術の伝達にとどまらず、新たなリハビリテーション技法を自ら開発することにより、地域社会を支えとともに、これからの超高齢社会に貢献できる人材を育成したいと考えている。

本学は、大阪南部の自然豊かな環境に立地していることから自然環境を活用した園芸療法を一つの柱としてきた。これまでの園芸療法の経験を生かして、園芸療法の効果を科学的に検証し、その適応範囲を拡大すると同時に、植物そのものの作用検証に向けての研究を開始している。和泉地域の多くの特産品（水ナス、むくなまめ、梅など）には、人体に有用な成分が含まれていることを明らかにしてきたが、これらの作物や食物の研究を充実させ、地域企業とタイアップした機能性食品の開発に貢献したい。

本学の認知予備力研究センターは、認知予備力の本態を解明する研究を続けてきており、食事・運動・睡眠などの

ライフスタイルが認知予備力を高めうることを示してきた。認知機能の維持は、健康寿命の延伸に重要であることも示されている。最近開発されたモノクロナル抗体投与により脳内アミロイド蛋白を除去することが可能となったが、脳内アミロイド蛋白の除去は認知予備力を高めることにつながっており、認知予備力を活用した認知症予防法の開発が手の届く段階となっている。和泉大学は、認知予備力研究の成果を通じて、地域在住高齢者の健康創成に貢献する。

理学療法による運動機能解析、作業療法による生活行為の見える化、言語聴覚療法による脳内神経ネットワーク活動などの膨大なデータ解析にはデータサイエンスの技法が重要となる。このようなデータに加えて、遺伝子・血液・体液・身体活動・生活行為・ライフスタイルなどにまたがるデータを統合した研究の推進を図るために、データサイエンスの展開を図りたい。

健康創成社会の構築には、健康寿命の延伸に加えて、ライフスタイルを改善し、認知機能と心の満足度を高めることが重要である。和泉大学は、その教育研究活動を通じて、地域在住高齢者の健康寿命の延伸と、和泉地域の産官学の力を結集して、地域の健康創成に貢献していく。

#### 4. 新しいビジョンの共有

##### (1) 学生・教職員向け

本学は、新たな可能性を提供するために和泉大学に大学名称を変更します。

和泉大学は、これまでのリハビリテーション専門職養成校としての実績に加え、教育・研究の幅を大きく広げ、新たな挑戦を始めます。

本学は、2026年以降、認知予備力研究センターでの研究成果を応用した先端的な教育プログラムを開始します。これにより、認知症予防や健康寿命の延伸に関する専門知識を習得するカリキュラムを提供します。また、生物学実験やデータサイエンスを駆使した研究活動に参加する機会が拡大し、学生・教職員ともに国際的な研究活動へ参加する道が広がります。

和泉大学の新名称のもとで、「未来のリハビリテーションを創造する力」を育み、世界に通用する専門職や研究者を共に育成しましょう。

##### (2) 本学卒業生向け

本学の宝は、これまで20年間に育成した2000名に上る理学療法士・作業療法士・言語聴覚士というリハビリテーション専門職であることは言うまでもありません。本学のこれまで20年の存在価値は、社会で活躍されて

いる本学卒業生の皆さんが形作ってこれたと言っても過言ではありません。本学の卒業生の皆さんが大阪・和歌山をはじめとした各地域でのリハビリテーション・サービスを担い、社会に貢献されていることは本学の誇りです。本学は、和泉大学と名称を変更して、新たな領域に挑戦しますが、リハビリテーションが本学の教学活動の中心であり続けることには変わりありません。本学は、リハビリテーション専門職の養成だけにとどまらず、リハビリテーション学周辺の学問領域に取り組み、新たな未来のリハビリテーションを開発したいと思っています。引き続き、本学の大事な卒業生として本学をご支援いただきたいと思います。

##### (3) 地域住民向け

和泉大学は、地域住民の皆さまの健康寿命を延ばし、個人が主体的に自分の健康データを管理してリハビリ専門職と共に心身ともに充実した生活を人生最期まで続けることを支援します。

高いレベルのウェルビーイングを維持したよりよい暮らしを提供する「地域の大学」として生まれ変わります。

これまで進めてきた園芸療法の研究をさらに発展させ、地域の特産品（水ナス、むくなめ、梅など）を活用した健康増進プログラムを展開します。また、リハビリテーション技術の活用により、地域の高齢者が自宅で自立した生活を送れるよう支援する新たなプロジェクトも予定しています。

これまで貝塚市と提携して行ってきた「つげさん健康チェック事業」をさらに拡大し、地域住民の方々を対象にした認知機能を高めるための食事・運動・睡眠指導を行う「健康創成ワークショップ」を毎月開催し、皆さまと共に健康な未来を築く活動を進めていきます。このように、和泉大学へと発展展開することにより、地域に貢献したいと考えています。

##### (4) 企業・行政向け

和泉大学は、地域の企業や行政との連携を通じ、新たな価値を創造します。

健康創成社会の実現に向けた取り組みの一環として、産学官連携で「健康寿命延伸プロジェクト」を立ち上げ、地元企業の製品（例：機能性食品や福祉機器）を活用した実証研究を進めます。また、データサイエンス技術を用いて、地域全体の健康データを解析し、企業や行政の政策決定に役立つ提言を行います。

さらに、自治体と連携した健康啓発イベントや企業の社員向け健康教育プログラムを提供し、地域全体の健康水準向上に寄与します。これらの取り組みは、地域社会

の発展と企業の社会的責任（CSR）活動の両面でのメリットを生み出します。このように地域の企業にとって、和泉大学との連携は、ビジネスの展開と社会貢献をもたらします。

## 5. 「和泉大学」名称の由来

本学が位置する大阪府南西部（大和川以南）地域は、古来、和泉国（いずみのくに）と呼ばれ、「泉州」とも呼ばれていた。その由来については、神功皇后が新羅出兵の途中、この地を訪れたときに地中から波音が聞こえ、一夜にして清泉が湧き出たことから、「和泉」と名づけられたという説がある。

また、「泉」という漢字一文字の地名が先にあり、「和泉」という名前は、奈良時代（713年）の「二字佳名（にじかめい）の詔（みことのり）」（国名をすべて漢字二文字に統一し、縁起のよい漢字を入れるという法律）によって生まれたという説もある。泉国の藩主たちは「平和な泉の国が続きますように」と願いを込めて、「和泉」と国の名前を変えたとも言われている。

本学が建学以来掲げてきた建学の精神「夢」と「大慈大悲」、および、2020年に定めたタグライン「寄り添うところ、支える技術。」が表現している「人と人との繋がり」は、「和」と「泉」の文字のそれぞれの意味と共通している。

これらのことを踏まえて、地域に生きる本学のビジョンを明示する新たな大学名称として「和泉大学」へ変更することとした。

## 6. これから取り組むべきこと

本学は、大学の名称変更の機会に、これまで述べてきたように新たなビジョンの下に脱皮し発展したいと考えているが、そのためにはしなければならないことが沢山ある。これからの1年余りは限られた時間ではあるが、教職員が力を合わせて取り組み、和泉大学の出発までに、以下の項目に取り組んで行きたい。

### 1. ブランド戦略の強化

「和泉大学」としてのアイデンティティを明確にするために、新しいロゴマークとスローガンを作成したい。そして、公式ウェブサイトやパンフレットにて発信したい。

その際には、当然のことながら、「リハビリテーション大学」の専門性や実績を、新名称でも受け継ぐことをアピールしたい。例えば「リハビリテーションの伝統を

引き継ぐ和泉大学」のようなメッセージを新たなロゴやスローガンに反映したい。

### 2. コミュニケーションと広報活動

2026年4月から本学は和泉大学と名称を変更するが、当然のことながら最低3年間は大阪河崎リハビリテーション大学に入学した学生も在籍することになる。既存学生には名称変更による不便をかけることになるが、当分の間は、和泉大学名に加えて旧大学名として大阪河崎リハビリテーション大学も併記することにより対応したい。また、卒業生への配慮も必要であり、卒業生に対して「旧大学名も公式文書に併記可能」とすることを案内したい。

本学が和泉大学に名称変更することは、貝塚市長と和泉市長に説明に伺いご快諾いただいた。地域社会との連携を深めるためであることを地域に発信し、大阪府南部の自治体や企業と協力し、地域に根ざした大学であることをアピールしたい。

同時に今まで以上に広報活動を展開したい。SNS、新聞、テレビ、ラジオを通じて「和泉大学」の新しいビジョンを発信し、認知度を向上させたい。特に、地元住民や高校生への積極的なアプローチは重要であり、今まで以上に力を入れたい。

### 3. 学生募集戦略の刷新

#### (1) 地域密着型イベントの開催

地域住民や高校生向けのオープンキャンパスや説明会を充実させ、和泉大学の魅力を直接伝えることが必要である。

#### (2) 学問領域のアピール

とりわけ重要なことは、既存のリハビリテーション分野に加え、新たに拡張する分野（健康創成、データサイエンス、園芸療法など）を明確に打ち出すことであろう。

#### (3) 奨学金制度の見直し

名称変更後の最初の数年間は、特別奨学金を提供するなど、学生を引きつける施策を検討することにより、優秀な若者を獲得したい。

### 4. 校内外の関係者への働きかけ

#### (1) 教職員の意識改革

名称変更の意図と期待される成果を全教職員が共有し、一体感を醸成することにより、名称変更後の動きが加速されと考えられるので、機会あるごとに全教職員による名称変更後の変化について議論する場を持



きたい。

(2) 卒業生ネットワークの活用

名称変更をポジティブに受け入れてもらうため、卒業生に特別なイベントや記念品を提供し、支持を得ることを考えたい。

(3) 産学連携プロジェクトの推進

地元企業や医療機関と共同プロジェクトを進め、「和泉大学」のブランドを実践的に広げていきたい。

5. 名称変更の移行期間の設置

(1) 旧名称の併記

新名称に移行する数年間は、「和泉大学（旧：大阪河崎リハビリテーション大学）」のように併記して、スムーズな認知移行を図る。

(2) 段階的変更

看板、公式文書、ウェブサイトなどの変更を段階的に行い、混乱を防ぐ。

6. 新たな教育・研究プログラムの開発

最も大事なことは、名称変更にあふさわしい新たな教育・研究プログラムを準備することであろう。データサイエンス、フードサイエンス、リハビリテーションプログラム開発、ロボット介護、新たな園芸療法などの新たな領域における新プログラムを策定し、実行に移すことが求められている。新たなプログラムには以下のような視点をも組み入れたものにしたい。

(1) 地域連携型プログラム

和泉市や大阪府南部のニーズに応じた教育プログラムを新設し、地域社会に貢献する姿勢を示す。

(2) グローバル視点の強化

留学生受け入れや国際交流プログラムを拡充し、全国・国際的な大学としての発展を目指す。

## 8. まとめ

名称変更は、本学発展の大きな転機となりうるものと考えている。「和泉大学」としてのブランドを確立するためには、地元との連携強化や新たな学問領域の拡張を効果的に活用し、関係者全員を巻き込むことが重要であり、また、旧名称のブランド価値を活かしつつ、新名称での認知度を向上させることが成功の鍵となるであろう。

## 7. 成果の可視化

以上のような事柄を積み上げて、大学の名称変更により本学が新たな出発を果たす準備としたい。名称変更後の実績については、名称変更後に達成した成果（例：学生数の増加、新たな研究プロジェクトの成功）を定期的に公表し、新名称の価値を示したいと考えているが、さらに、学生や教職員、地域社会からの意見を継続的に収集し、変更に伴う課題に迅速に対応するためのフィードバック情報の収集に努め、本学の持続的な発展を図りたい。

## 資料



泉州は大きく泉北と泉南に区分される。泉北地域には、堺市・泉大津市・和泉市・高石市・忠岡町の4市1町が含まれ、泉南地域には、岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町の5市3町が含まれる。

泉州地域には、堺市（7）、貝塚市（1）、泉佐野市（1）、松原市（2）、和泉市（1）、熊取町（3）の合計15大学がある。

## 大阪府堺市（7）

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

設置学部数（12） キャンパス数（5）

大阪物療大学

設置学部数（1） キャンパス数（1）

関西大学堺キャンパス

設置学部数（14） キャンパス数（5）

太成学院大学

設置学部数（3） キャンパス数（1）

帝塚山学院大学泉ヶ丘キャンパス

設置学部数（3） キャンパス数（1）

羽衣国際大学

設置学部数（2） キャンパス数（1）

桃山学院教育大学

設置学部数（1） キャンパス数（1）

## 大阪府松原市（2）

阪南大学本キャンパス

設置学部数（4） キャンパス数（2）

阪南大学南キャンパス

設置学部数（4） キャンパス数（2）

## 大阪府和泉市（1）

桃山学院大学

設置学部数（6） キャンパス数（2）

## 大阪府貝塚市（1）

和泉大学（令和8年4月から）

設置学部数（1） キャンパス数（1）

## 大阪府泉佐野市（1）

大阪公立大学りんくうキャンパス

設置学部数（12） キャンパス数（5）

## 大阪府熊取町（3）

大阪観光大学

設置学部数（2） キャンパス数（1）

大阪体育大学

設置学部数（2） キャンパス数（1）

関西医療大学

設置学部数（2） キャンパス数（1）